

学校評価のまとめ

令和元年度 目黒区立第八中学校 学校評価のまとめ

令和2年3月11日

評価項目	評価の結果	次年度の教育課程の改善点
学校全体について ・学校の雰囲気、学習環境、教職員の態度などについて (上記3項目の平均値) 保護者 89.4% 生徒 95.5% 地域 86.5% 教員 96.4%	<四者による学校評価アンケートの主な内容>○成果 ●課題 ○学校全体への肯定的評価はここ数年高い数値を維持できており、特に生徒においては 95.5%が充実した生活を送っていると答えている。 ●地域の方からの評価も 86.5%という高い評価であるが、「わからない」という回答も多かった。 <学校評価委員の意見> ・授業見学をしたがどの教室も落ち着いて取り組んでいた。学校全体の雰囲気がとても良いと思う。	・概ね、生徒や保護者の方からの信頼が厚く、その期待に応えられるよう「ほめて育てる。認めて育てる」指導を継続させ、心を育てる教育を推進していく。 ・地域の方へは、学校公開や学校生活の様子などを知っていただく機会が足りなかったことが原因と考え、地域行事に積極的に参加するなど、今後も積極的に地域から愛される学校をめざしていく。
I 教育目標について ・教育目標、時程、教育内容全体について 保護者 90.7% 生徒 92.7% 地域 92.3% 教員 100%	<四者による学校評価アンケートの主な内容>○成果 ●課題 ○教育目標や指導の重点は、保護者会や地域でも説明してきており、生徒や地域の実態にあった適切な内容であると評価されている。いずれも昨年度よりポイントが上がった。 ○日ごろから人権尊重教育推進校としての取組を継続して実践している。また、教育目標の「考えて行う」に重点を置いた様々な教育活動は生徒にも深く浸透しており、意識して学校生活を過ごしている生徒が多い。 <学校評価委員の意見> ・「考えて行う」は大切なことであり、日常の生活、行事などで定着を図ってほしい。	・全校朝礼や行事などで教育目標に触れる機会を増やすとともに、諸活動のねらいや目標を、「考えて行う」と関連させて教育活動に取り組む。 ・学習を始めとする様々な教育活動において、特に「考えて行う」に重点をおいた「振り返り」を行い正しい判断力を養っていく。 ・引き続き重点目標を「考えて行う」とし、生徒、保護者、地域に周知し、徹底して指導していく。
II 心の教育について ・道徳科(道徳)の授業の充実や児童・生徒の道徳的実践力の向上に向け	<四者による学校評価アンケートの主な内容>○成果 ●課題 ○道徳の授業を通して、「自分ならどのように考え、行動するか」を考え、他者と意見を交わすなど、対話的な活動が定着できた。 ○「いのちの授業」や人権講演会等を通して、命の尊さや思いやりの心	・「特別の教科 道徳」となった初年度の反省を生かし、各学年の実践内容を参考にしながら、八中の道徳の評価方法をさらに検討していく。また、その評価が生徒にとっても道徳的な価値を

た取組について 保護者 91% 生徒 98% ・人権尊重の立場で他者を理解し、良好な人間関係の形成、オリパラ教育をもって、障害者やそのスポーツの理解を深める 保護者 94% 生徒 96.7%	をもって生活できていると、多数の生徒が評価している。 ●教科としての道徳の評価について、校内研修を行い授業の展開の仕方や評価方法については知識を得たが、さらに全校体制で評価の工夫・改善を図る必要がある。 ＜学校評価委員の意見＞ ・道徳の授業が高い評価を得ている。今後も、お互いの意見を言い合える雰囲気を大事にしてほしい。 ・人権教育を学校の特色として充実させてほしい。	学び、実践的な行動力に繋がるものとなるように、道徳担当者を中心に全体へ具体的な改善策を働きかける。 ・オリンピック・パラリンピック開催年にあたり、人権尊重の精神や障害者理解について、さらに学習を深めていく。
Ⅲ 学習指導等について ・学力の定着・向上にむけた授業の改善・充実、少人数指導等の取組み ・職場体験等体験活動、自然宿泊体験教室、キャリア教育等の充実について 保護者 82% 生徒 87% 教員 94%	＜四者による学校評価アンケートの主な内容＞○成果 ●課題 ○各学年とも体験学習を通して、仕事や自分の生き方について学習する機会を得たことへの高い評価を得た。 ○授業の理解度に対する生徒の意識は、87%と高い。保護者からも昨年度より 10%高い評価を得ている。 ●学年によっては、行事の準備や特別活動の内容が多く、進路学習の充実を図れなかったこともあった。 ●前後期ごとに開設している放課後や定期考査前の学習教室の活用率が低調である。授業の理解度が低い生徒への参加がなかなか定着しない。 ＜学校評価委員の意見＞ ・授業力向上は常に課題である。新学習指導要領全面实施に向けて、生徒の実態や時代の流れに合った授業を展開してほしい。	・各学年で年間計画をもとに行った体験学習内容を引き継ぎし、八中としての進路学習のスタンダードを作っていくことを目標とする。 ・まず授業できっかけを作り、家庭学習で理解を深めさせたいが、それが難しい生徒に対して、もっと担任や学年レベルで放課後や定期考査前の学習教室への参加を促す。また、アフタースクール、ウイークエンドスクールに申し込んだ生徒の参加状況を、月単位で担任に報告をし、保護者、教科担任とも連携を取っていく。 ・教育用パソコンが新規に導入されたことを受け、授業等での活用を図っていく。
Ⅳ 体育・健康教育について ・健康の促進、体力の向上に向けた取組の充実について 保護者 82% 生徒 94% 教員 92%	＜四者による学校評価アンケートの主な内容＞○成果 ●課題 ○「あなたは、学校で一生懸命に運動をしたり、健康に気を付けたりして生活していますか」の質問に対して生徒からは93.5%と肯定的な評価を得た。 ●体力向上、健康の増進を日常的な取組を習慣化していくことが近年の課題である。	・栄養士による食育の授業や、保健給食委員による歯磨き運動、ハンカチチェックなど、引き続き取り組んでいく。 ・体育行事委員会を中心に運動会や区連合体育大会など意欲的に行い、体力向上の意識を高める。 ・保健体育科体育理論の授業を通して、健康や運

	<学校評価委員の意見> ・給食の試食を通して、食育に工夫している様子がうかがえた。心身ともに健康な体は学習や生活を支える重要な要素なので、家庭への啓発を図ってほしい。	動スポーツの安全について学んでいく。
V 特別活動について ・学校行事の充実、異学年交流活動・部活動の活性化などについて 保護者 87% 生徒 91% 地域 100% 教員 92%	<四者による学校評価アンケートの主な内容>○成果 ●課題 ○学校行事や生徒会活動、部活動の充実への取組に対し、生徒、地域、教職員において 90%以上の肯定的評価を得た。 ○「特別支援学級 E 組との交流を通して、人に対する思いやりの心を育てるように努めている」、「人権の大切さを考える機会を与えている」の保護者の肯定的評価がそれぞれ 94%、93%と高い。 ●高い評価を受けているが、今後も指導方法等については全教職員を上げて研究・修養に努め、特別活動の一層の充実を図る。 <学校評価委員の意見> ・部活動は生徒が楽しみにしているものである。いろいろな課題があり先生方の負担も大きいと思うので、生徒にとっても先生方にとっても無理のない範囲で行ってほしい。 ・どの行事も充実している様子がうかがえる。	・引き続き学校行事、生徒会活動の活性化を図りながら、生徒の自治的能力の向上に努める。 ・特別支援学級 E 組との交流を、様々な行事や取組を通して定期的に行う。 ・本校の特色である人権教育を通し、生徒の人権意識を養う。 ・今後も特別活動の取組の状況を積極的に地域に発信していく。 ・部活動では外部指導員の確保に努め、可能な範囲で部活動の充実を図る。
VI 学校生活全般について		
<生活指導> ・生活規律の徹底、いじめや不登校の現状と対応、教員の関わり方、特別支援教育への取組などについて 保護者 94% 生徒 95% 地域 83% 教員 100%	<四者による学校評価アンケートの主な内容>○成果 ●課題 ○生徒は学校のきまりやマナーを守り、落ち着いて勉強していると 95%の生徒が回答している。保護者の肯定的評価も 94%と昨年度と比べて向上している。 ○「先生は、生活指導上の問題について気を配り、見逃さずに対応してくれますか」に対する生徒の肯定的評価は 92%と高い。 ●「学校は、いじめ防止等（未然防止、早期発見、早期対応）に努めている」に対する保護者の肯定的評価が 77%とやや低い。 <学校評価委員の意見> ・授業見学をする限り、授業規律は徹底していると思った。いじめ、不	・「中学校は大人になる準備をする学校」をキーワードに、挨拶や言葉遣い、身だしなみなどの共通実践項目を継続して指導していく。 ・本校の特色である人権教育を推進させながら、人それぞれの違いを理解させる教育活動を多く設定し、「いじめ根絶」を目指す。 ・年 3 回の学校生活に関するアンケート調査を継続するとともに、日々の生徒観察、コミュニケーションを一層充実させ、いじめの未然防止、早期発見、早期対応に努める。

	登校に対して、早期発見・早期解決に努めてほしい。 ・先生方のきめ細かな感性、指導を期待する。	・学校を上げた生活指導の取組について、保護者への周知を積極的に行い、理解を得ていく。
<防災教育・安全指導> ・事故や災害に関する安全教育や情報モラル教育の充実、安全管理などについて 保護者 86% 生徒 94% 教員 89%	<四者による学校評価アンケートの主な内容>○成果 ●課題 ○「あなたは、災害時に自分の安全を守るため、適切に行動することができますか」、「あなたは、事件や事故の防止のための活動や訓練に真剣に取り組んでいますか」に対する生徒の肯定的回答は、94%と高い。 ●学校の防災教育、安全指導に関する取組に関して、保護者の「分からない」とする回答が13%と高い。 <学校評価委員の意見> ・避難訓練が定着しているようである。マンネリ化しないように工夫をして取り組んでほしい。	・昼休み中やけが人がいる場合等を想定した避難訓練を計画的に実施し、ヘルメット着用など自ら適切な行動が取れるよう指導を継続する。 ・ネットトラブルの未然防止を重視し、外部機関と連携して参加型・体験型のセーフティ教室を実施する。 ・防災教育、安全指導に関する学校の取組を、学校のホームページ、学年だより、保護者会等で積極的に発信していく。
<小・中連携> ・中学校や同じ中学校区の小学校と連携について 保護者 87.0% 教員 88.6%	<四者による学校評価アンケートの主な内容>○成果 ●課題 ○「自ら学び考え、行動できる生徒の育成」をテーマとし、小中それぞれの教科の授業を見合い、9年間を見通した指導について研修を行ったことにより、生徒理解が深まった。 ○6年生対象の授業・部活動体験では、小学生が安心して中学生活を送るための意識づくりにも役立っていた。 ○「いじめ問題を考えるめぐろ子ども会議」において、小学校6年生と中学2年生の児童・生徒全員が小グループに分かれての話し合いを行った。その際、話し合いがスムーズに進むよう、事前の交流会などを工夫し、より効果的な話し合いが進められた。 ●保護者からは活動の内容が見えにくいため、「あまりあてはまらない」5.6%、「分からない」の回答が7.4%と多かった。 <学校評価委員の意見> ・大岡山小学校との交流が進んでいるようである。保護者にもっとアピールすると良いのではないかな。	・保護者、教員とも小・中連携への評価が高まっており、「いじめ問題を考えるめぐろ子ども会議」を始めとした一連の活動における有効性を実感することができた。一方で保護者からは見えにくい取組でもあるので、理解を得られるよう、学校だより等で周知するとともに、教育活動に還元していく。 ・これからも工夫し、より良い教育活動につながるよう、小・中連携を図っていきたい。

評価項目	評価の結果	次年度の学校運営の改善点
Ⅶ 情報の発信、家庭・地域との連携について ・学校の情報発信や地域人材の活用、保護者の協力状況、PTA活動の充実などについて 保護者 84.3% 地域 92.9%	＜四者による学校評価アンケートの主な内容＞○成果 ●課題 ○地域や保護者からの評価は、92.9%、84.3%と肯定的な回答率が高くなっている。 ●今後も地域の人材活用を進め、学校と地域の一体化を図っていく。 ＜学校評価委員の意見＞ ・学校日より、ホームページなどで学校の様子がよく分かる。ホームページの活用をさらに工夫してみたらどうか。 ・地域の行事に生徒たちがたくさん参加するようになった。お客さんとして参加するのではなく、運営の段階から参加して、地域の一員という意識を高めたい。	・来年度も信頼される学校を目指し、様々な機会を利用して、学校全体で情報を発信し、保護者や地域との連携を深める。 ・「見守りメール」は好評であり、登録率 100%を目指し取り組みたい。特に入学時が登録できるよい機会であり、積極的に保護者に呼びかけを行う。 ・生徒会や吹奏楽部などの部活動と連携した地域行事への参加、地域人材の活用などを積極的に推進していく。
Ⅷ 教員の人材育成について ・日常の職務を通して専門性と協働性の育成、教育公務員の自覚について 教職員 91.7%	＜四者による学校評価アンケートの主な内容＞○成果 ●課題 ○教職員の評価では、91.7%となっており、昨年度よりも肯定的な評価が高かった。 ●校内でのOJTを日常業務を通して充実させる。 ＜学校評価委員の意見＞ ・日常的な業務を通して、個々の教員のスキルアップを図ってほしい。先生方のコミュニケーションが大切である。	・「主体的・対話的で深い学び」を意識し、各々の教員が授業の充実に努め、常に授業改善がなされるように努める。 ・日常の業務の中でベテラン教員と若手教員ができるだけペアになり、あらゆる業務の遂行方法を伝達する。
Ⅸ 教員の働き方改革について ・校務支援システムの活用、「チーム学校」を意識した業務分担等、組織的な業務の効率化・最適化について 教職員 69.4%	＜四者による学校評価アンケートの主な内容＞○成果 ●課題 ○校務支援システムの活用により、若干であるが負担軽減につながった。 ●教職員のなかでは、「業務の効率化・最適化に取り組む」という項目では、肯定的意見が 69.4%と低い。 ＜学校評価委員の意見＞ ・働き方に対する、先生方の意識も変える必要があるのではないかと。保護者の理解と協力も必要である。	・日常の業務を見直し、生徒にとって必要な業務なのかを見極め、場合によっては古い業務は削除することも考えていく。 ・週一度は「定時退勤」に努め、ワークライフバランスを充実させる。また、職員室等の美化に努め、「業務の効率化や最適化」に取り組んでいく。